

第 1 回多様な学びの在り方検討部会での各委員の意見

委員名	検討の視点に関すること	調査項目に関すること
田端 健人 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICTを活用した学び ・ 単位制をキーワードにした学びの柔軟化が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不登校の生徒が学校に通えるようになった後にさらに学ぶ意欲を刺激し、学んでいける方策とは。 ・ 他県での 1 次産業に関する学びの先進的な事例。 ・ 他県や私立の高校で、個別支援のための人的配置はどうしているか調査すべき。
菊地 直子 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業後の進路（在学中にやることが見える形でつながること） ・ 全国募集の必要性 ・ 多種多様な生の学びが必要 ・ 自ら選んでチャレンジした結果、成功した、失敗したという経験を通して自己肯定感も生まれてくるので、単位制はその意味でも重要だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障害の生徒の処遇（ポジティブな面） ・ 定時制、新たなタイプの学校ともに工夫していることの効果について
石川 俊樹 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定時制は定員に対して入学者が少ないため、少人数指導となっている。 ・ 単位制は、定通、全通の組み合わせを可能にし、学校でできることのバリエーションも増やすことができる。 ・ 県立高校で広域通信制の仕組み（本校とサテライト校）を構築できないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学級から普通高校に進学する生徒の割合とその対応
伊藤 宣子 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定時制のネーミング ・ 定時制と通信制のドッキングの形があっても良いのではないか。 ・ 生徒をコーチング、サポートする教師像が望ましい。 ・ 人間関係を作っていく上では、体験的な学習が必要だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校における不登校の問題整理 ・ 定時制卒業者の卒業後の進路

委員名	検討の視点に関すること	調査項目に関すること
片瀬 弥生 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・単位制は何に価値を求めるのかも含めて生徒自らが選択できる。 ・ICTを活用した学びが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査の回答者は学年主任とするか担任とするか決めるべき。 ・学校の良いところ、悪いところを生徒にも調査した方が良い。 ・できていることやりたいけどできていないことを教員に調査すべき。
小林 裕介 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・定時制の空いている時間を生徒がどのように使うかを情報発信すべき。 ・全日制、定時制、通信制を問わず生徒が望む進路に進める体制が理想だ。 ・全日制と通信制のドッキングもあっても良いのではないか。 	
脇坂 晴久 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学び直しから先取り学習まで対応できる段階的なプログラムが必要である。 ・教員のスタンスはアドバイザー，コーチング的な役割とすべき。 ・デジタル教材などICTの活用が必要だ。 ・再任用教員を活用したチームティーチングによる個別支援の体制が必要だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学び直しから高校段階へ向上させるような取り組みとしてどのようなことをしているか。 ・学習意欲が特別高い生徒に対してどのようなように対応しているか。 ・毎日通学するタイプの公立通信制高校として，神奈川県立横浜修悠館高校が参考となる。

第1回多様な学びの在り方検討部会での意見まとめ（検討の視点に関すること）

No.	キーワード	視点
①	単位制	<p>学びの柔軟化</p> <p>自ら選んでチャレンジしたことによる自己肯定感</p> <p>定通、全通の組み合わせに適している</p> <p>学校でできることのバリエーション</p> <p>何に価値を求めるかも生徒が選択できる</p> <p>学び直しから先取り学習まで対応できる段階的なプログラムが必要</p>
②	ICTの活用	<p>デジタル教材の活用</p> <p>ネットワークでの授業，話し合い</p>
③	個別指導	<p>定時制は結果的に少人数指導となっている</p>
④	教員の資質	<p>再任用教員によるチームティーチング</p> <p>コーチング，サポートの役割</p>
⑤	進路	<p>在学中に学ぶことが進路と見える形でつながることが必要</p>
⑥	他課程との連携	<p>全日制，定時制，通信制を問わず生徒が望む進路に進める体制が理想</p> <p>県立高校における広域通信制の仕組み（本校とサテライト校）の構築</p> <p>定時制と通信制のドッキング</p> <p>全日制と通信制のドッキング</p>
⑦	体験的な学び	<p>多種多様な生の学び</p> <p>人間関係構築のために必要</p>
⑧	情報発信	<p>定時制の空いている時間に何ができるか</p> <p>定時制のネーミング</p>
⑨	その他	<p>全国募集</p>

第1回多様な学びの在り方検討部会での意見まとめ（調査に関すること）

No.	キーワード	追加すべき調査項目等
①	段階的なプログラム	不登校の生徒が学校に通えるようになった後にさらに学ぶ意欲を刺激する方策 学び直しから高校段階へ向上させるような取り組み 学習意欲が特別高い生徒への対応
②	他県等	他県での1次産業に関する学びの先進的な事例 他県や私立の高校における個別支援のための人的配置 他県における個別指導の度合い
③	データ	毎日通学するタイプの公立通信制高校としては横浜修悠館高校が参考 特別支援学級から普通高校に進学する生徒の割合とその対応 中学校における不登校の問題整理 定時制卒業者の卒業後の進路
④	調査対象	調査の回答者は学年主任が担任が決めるべき 生徒への調査（学校の良いところ，悪いところ） 教員への調査（できていないこと，やりたいけどできていないこと）
⑤	その他	定時制，新たなタイプの学校ともに工夫していることの効果について 発達障害の生徒に対するポジティブな面での処遇